

## 資料2

前橋市社会福祉審議会  
第4回高齢者福祉専門分科会  
R8.3.24

---

### 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果(速報)

## 調査について

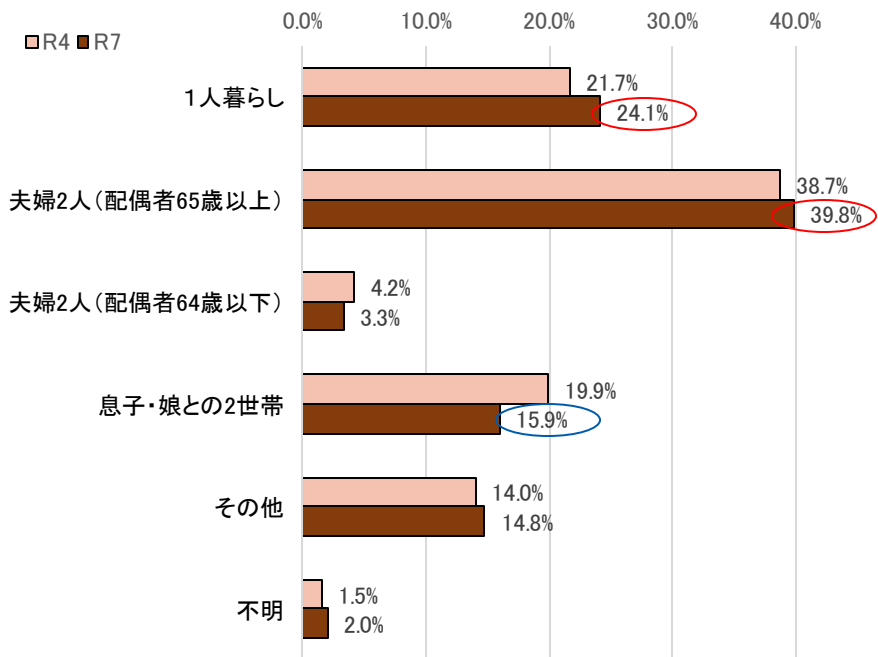
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を下の図の通り実施しました。今後は、国の地域包括ケア「見える化システム」を活用し、複数の回答結果から得られる傾向やリスクの分析を進めていきます。**今回は、要介護状態になる前の65歳以上の方5,000人を対象としたニーズ調査①の結果を中心に、一部抜粋してお示します。**

(1)目的	調査①	要介護状態になる前の高齢者について、日常生活圏域における生活実態やニーズ、地域の課題を把握する。
	調査②	介護予防事業の効果について分析するためのデータとして活用する。
(2)調査対象	調査①	前橋市内の要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者5,000人
	調査②	前橋市の介護予防事業参加者1,000人
(3)調査期間	令和7年12月1日(月)～令和7年12月26日(金)	
(4)調査方法	郵送またはWEB	
(5)有効回収数 (回収率)	調査①	3,254件 (65.1%) ※うちWEB回答は251件
	調査②	835件 (83.5%) ※うちWEB回答は74件
(6)調査内容 ※①②共通	詳細は別紙参照	

# ニーズ調査① 家族構成について

問1(1) 家族構成をお教えてください

【年齢別】

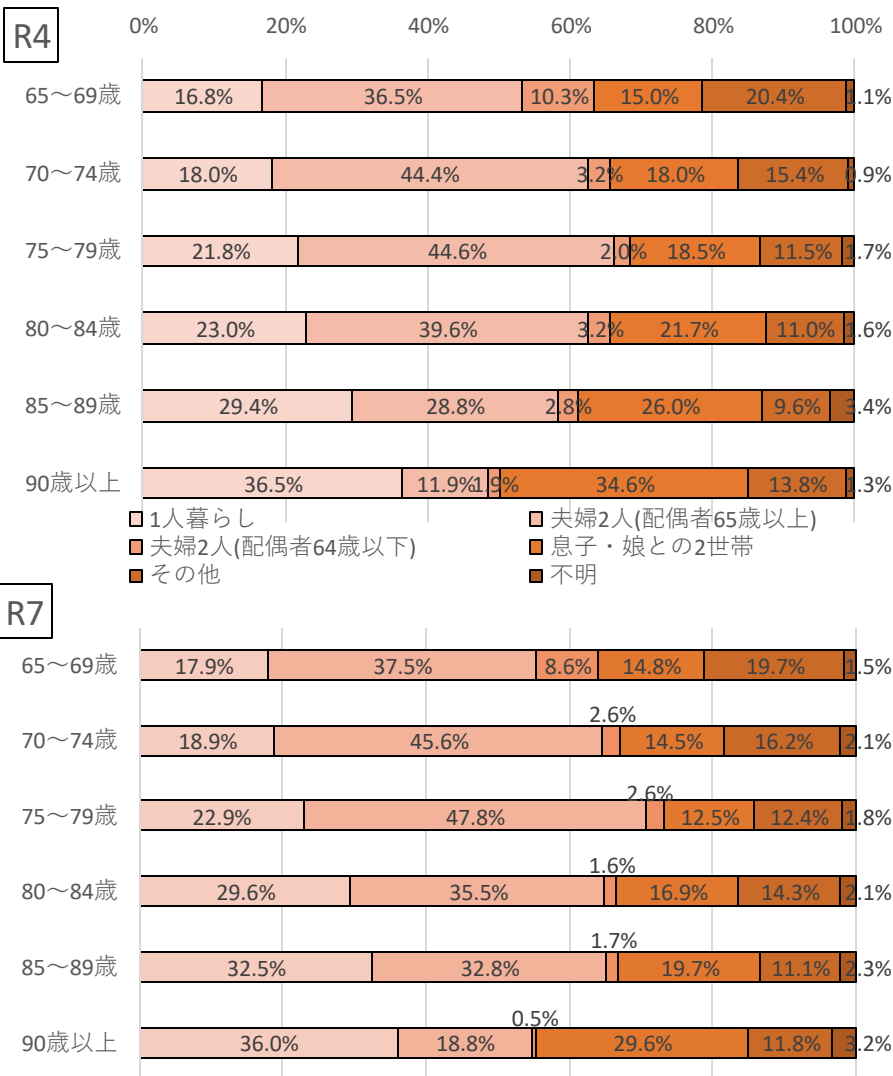


R4⇒R7

息子・娘との2世帯・・・減少

1人暮らし・夫婦2人(配偶者65歳以上)・・・増加

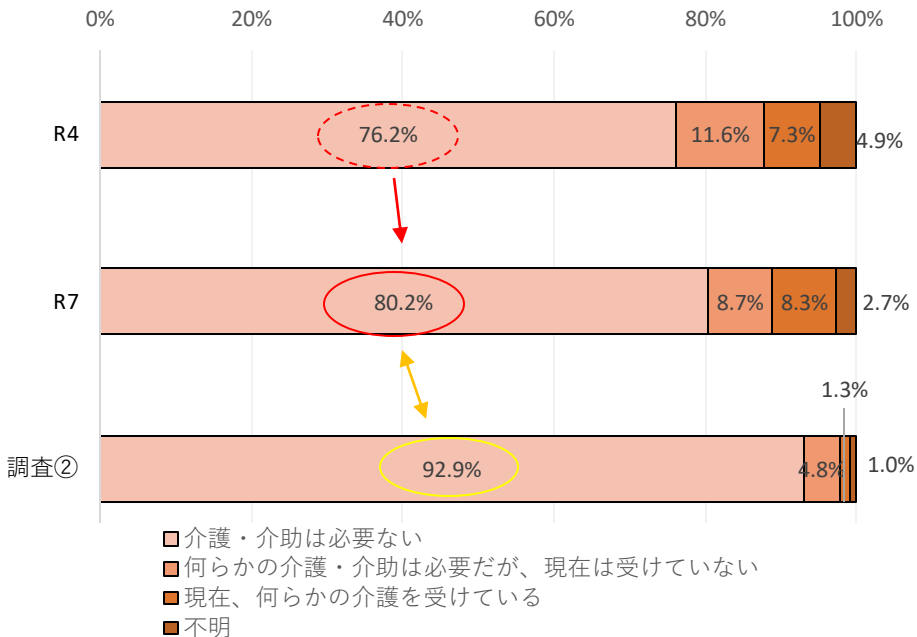
年齢別にみると、1人暮らしの割合は年齢が上がるにつれて増え、80歳以上で約30%となる。また、夫婦2人暮らしは80歳以上になると減少するが、反対に息子・娘との2世帯が増える傾向にある。



# 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果(速報)

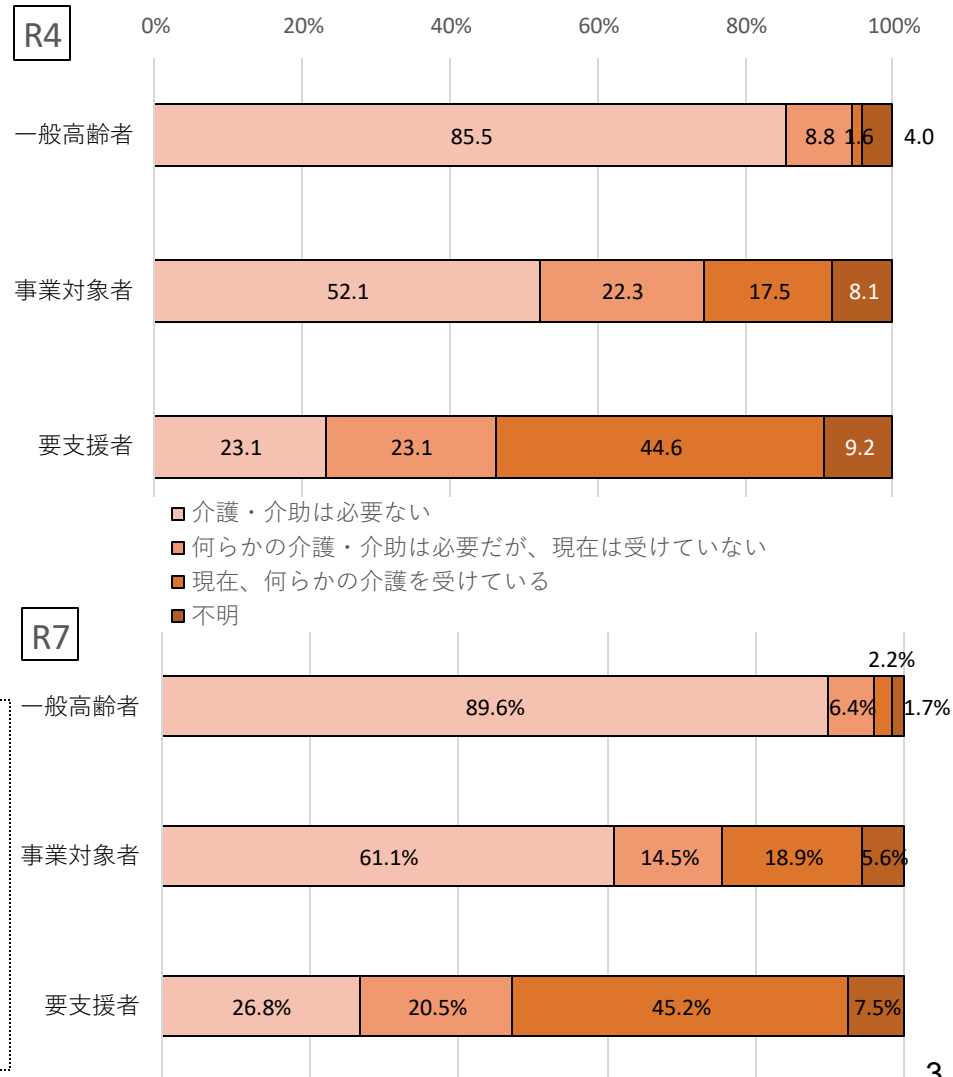
## ニーズ調査① 生活状況について

問1(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか



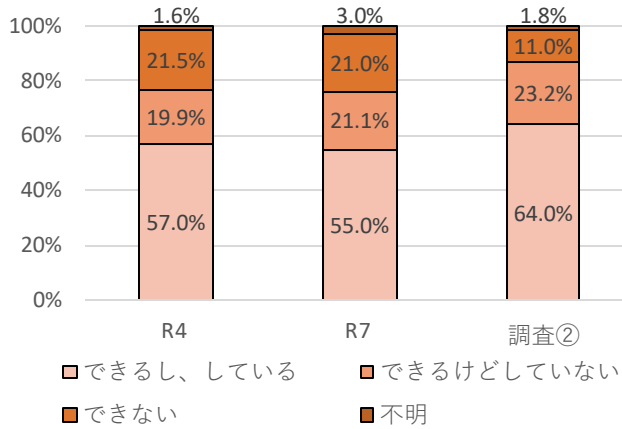
R4⇒R7  
 「介護・介助は必要ない」・・・増加  
 R7⇔調査②(介護予防事業参加者)  
 調査②は、「介護・介助は必要ない」割合が92.9%と、R7(調査①)よりも10%以上高い。  
 要介護度別にみても、R4⇒R7で「介護・介助は必要ない」と答えた人の割合は増加。「何らかの介護・介助を必要としている」割合が減少し、「現在、何らかの介護を受けている」割合が増加していることから、必要な支援が受けられていないという状況が改善している。

### 【要介護度別】

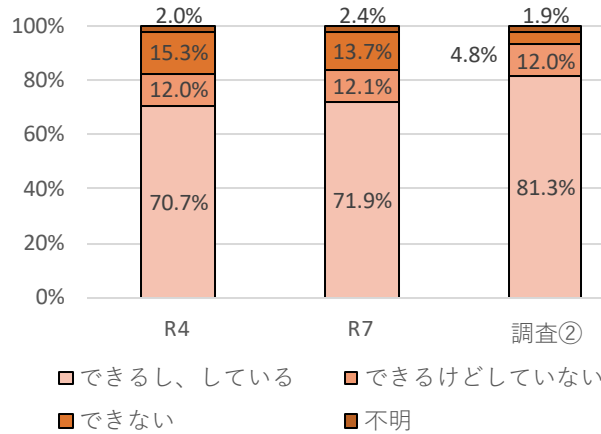


## ニーズ調査① からだを動かすことについて

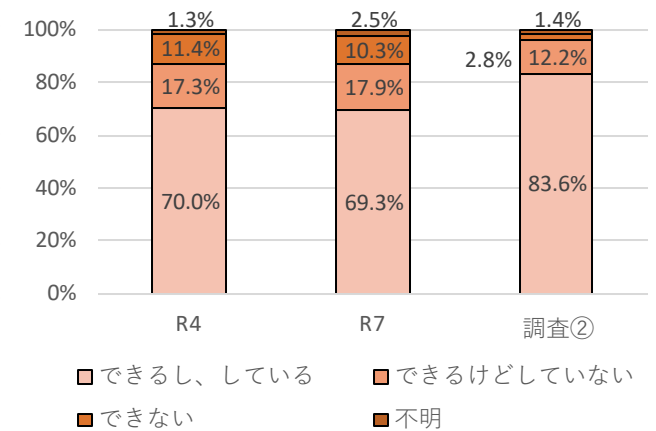
問2(1)階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか



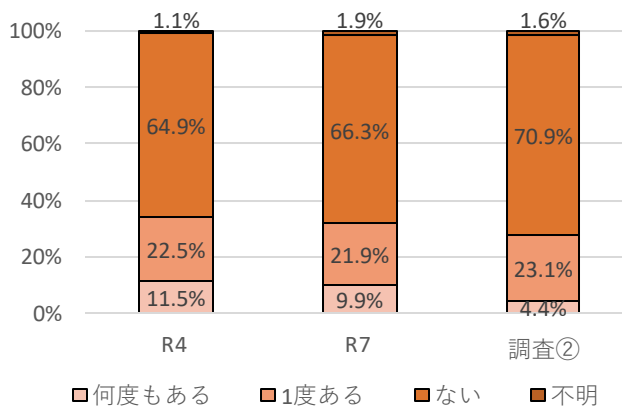
問2(2)椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか



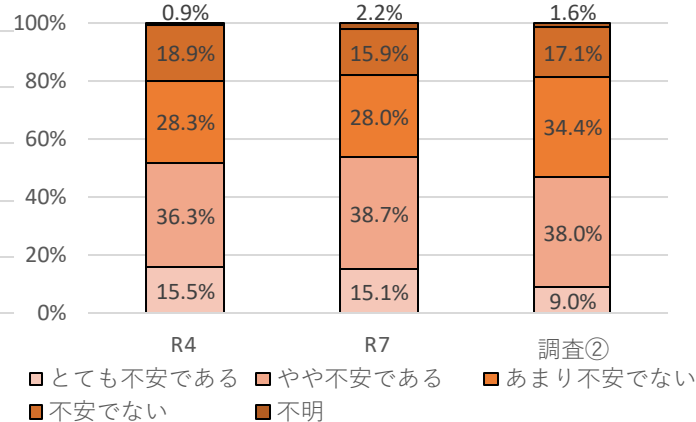
問2(3)15分位続けて歩いていますか



問2(4)過去1年間に転んだ経験がありますか



問2(5)転倒に対する不安は大きいですか



R4⇒R7(1)～(3)「できない」…減少

⇒元気な状態を維持できている。

R4⇒R7(4)転倒経験…減少

しかし、(5)転倒に対し「やや不安」と感じる割合は増加。

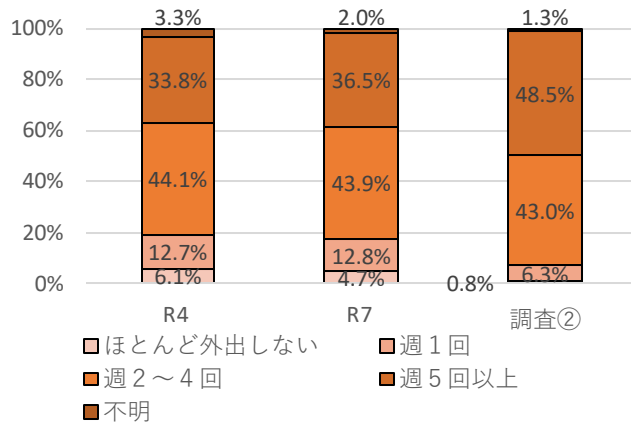
⇒転倒予防への意識が高まっている。

R7⇔調査②

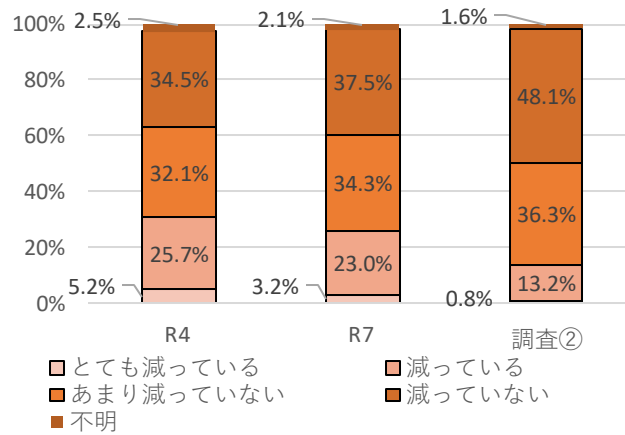
調査②の方がより元気な状態であることを示し、転倒に対する不安感も少ない。

# ニーズ調査① 毎日の生活について

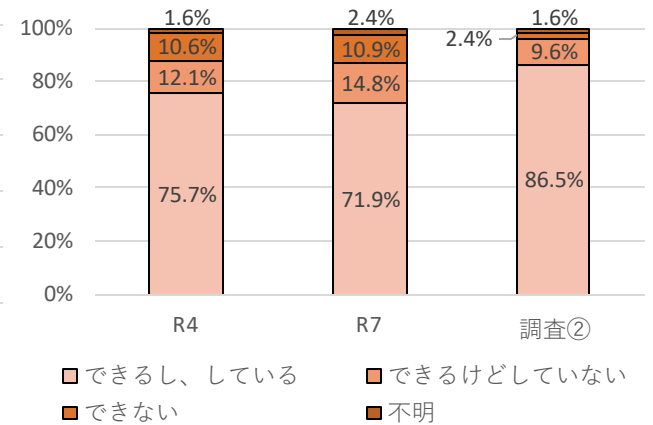
問2(6)週に1回以上は外出していますか



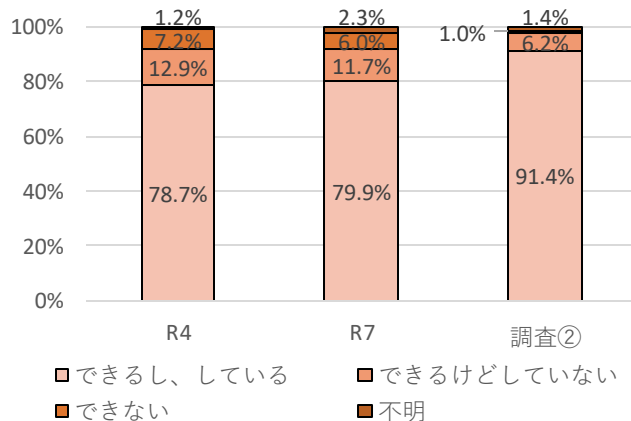
問2(7)昨年と比べて外出の回数が減っていますか



問4(2)バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)



問4(3)自分で食品・日用品の買い物をしていますか



問4(4)食料品の買い物において、どのような不便や苦勞がありますか(上位3つまで)

項目	R7 (n=3,254)
時間的余裕がない	3.4%
店が近くにない	24.5%
経済的に余裕がない	12.8%
買い物を手伝ってくれる人がいない	5.6%
足腰などに負担が大きい	22.3%
交通手段がない	7.3%
不便や苦勞はない	50.3%
その他	8.3%
無回答	6.2%

### R4⇒R7

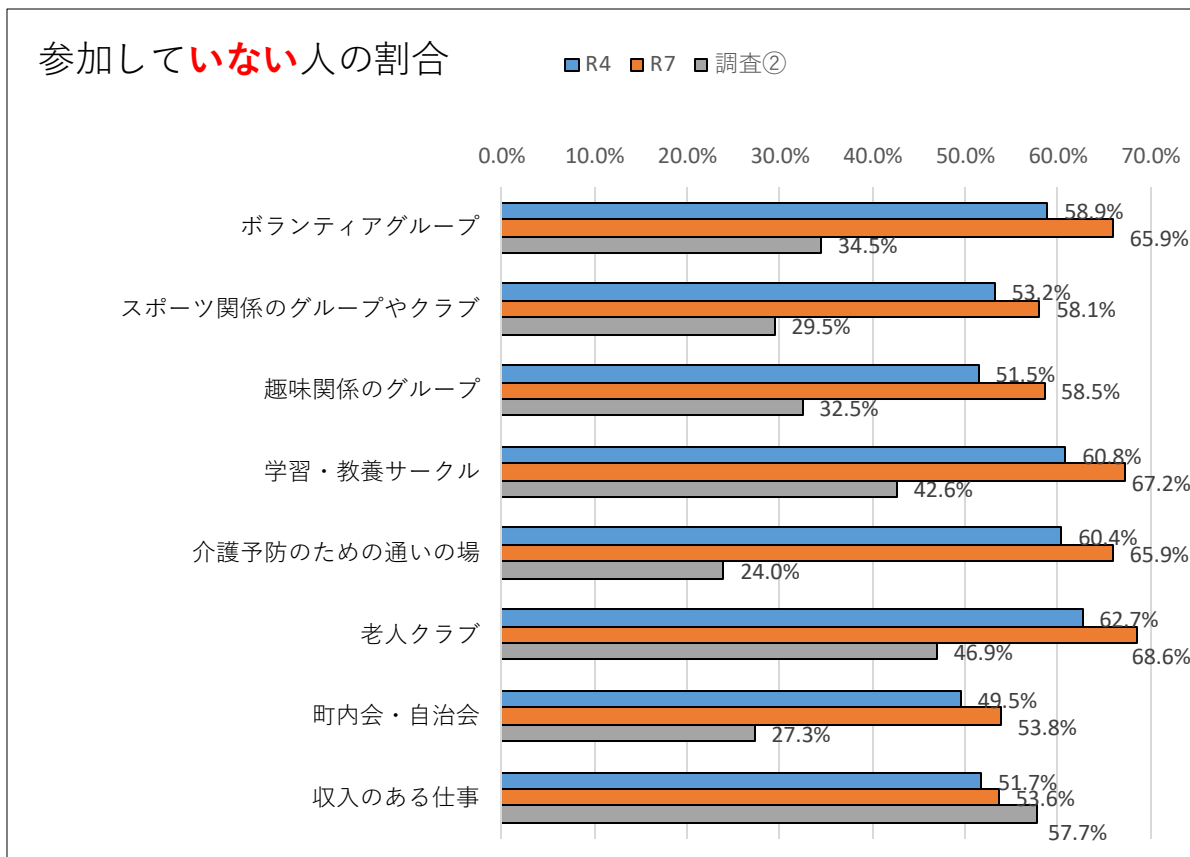
・・・外出する人の割合が増加。  
1人での外出や買い物について、「できない」と回答した人の割合も大きな変化はない。食料品の買い物においては、「店が近くにない」や「足腰への負担」が困りごととして選択されている。

### R7⇔調査②

調査②の方が外出頻度が高く、自立度も高い。

## ニーズ調査① 地域での活動について

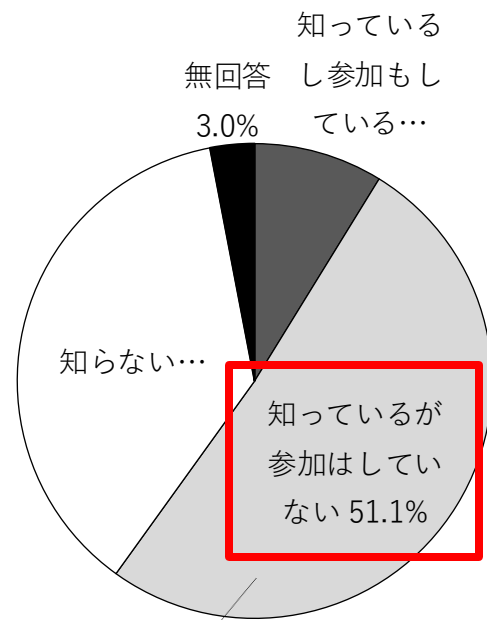
問5(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか



R4⇒R7・・・どの活動も参加していない割合が増加。

R7⇔調査②・・・調査②はR7に比べ「収入のある仕事」以外は、参加していない人の割合が少ない(=参加している人の割合が高い)。

問5(4) お住まいの地域で介護予防や生活支援の活動が行われていることを知っていますか

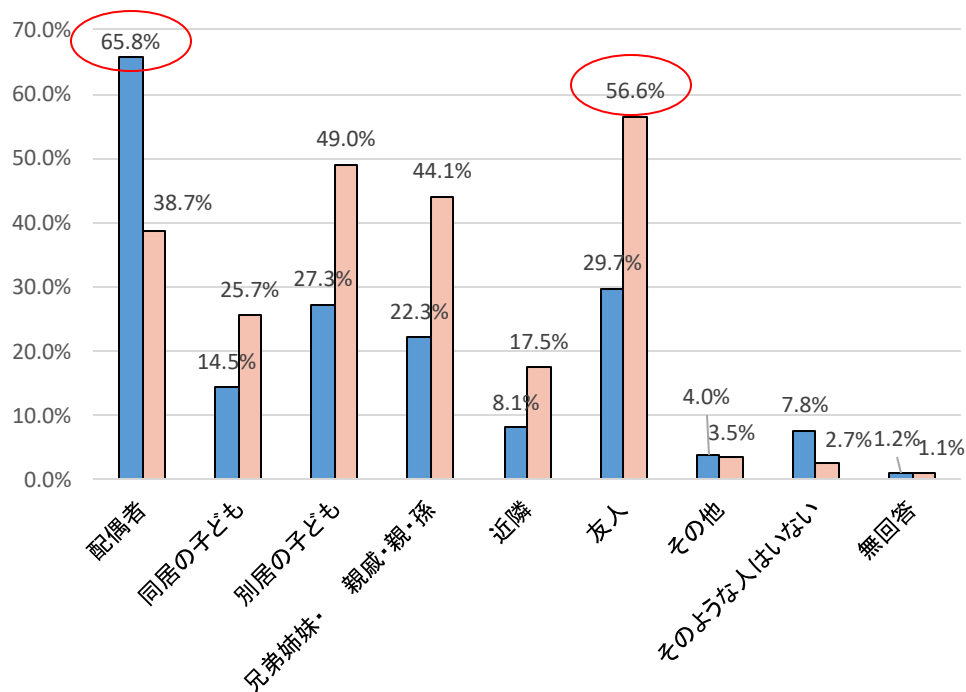


知っているが参加に至っていない人は約50%おり、回答した人の属性など、さらに分析していく必要がある。

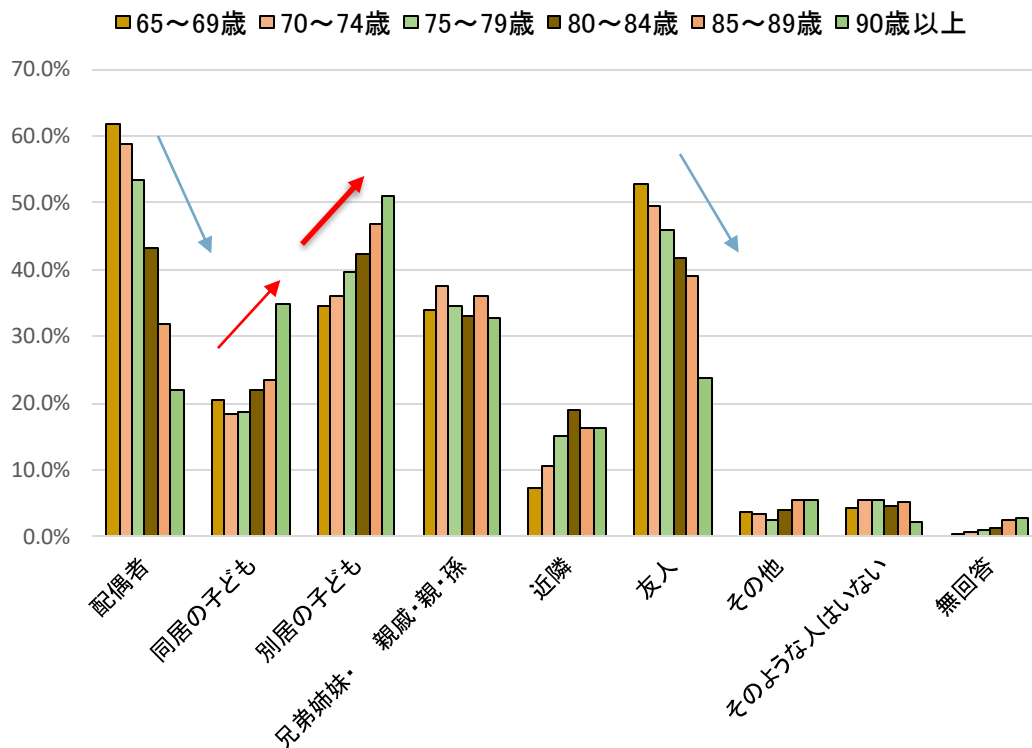
## ニーズ調査① たすけあいについて(情緒的サポート)

問6(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

【男女別】 ■男性 □女性



【年齢別】



男女別・・・男性は配偶者からサポートしてもらう割合が高い。一方で、女性は友人からサポートしてもらう割合が高い。

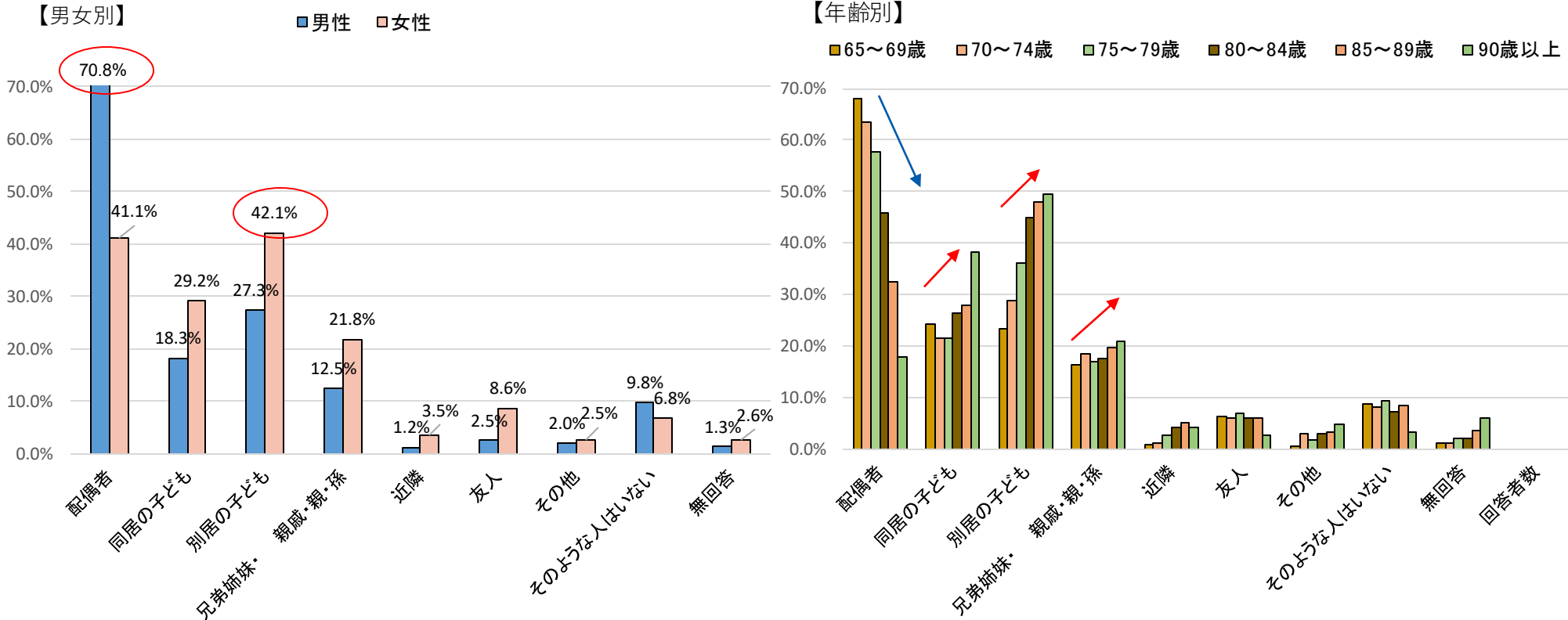
また、男性よりも女性の方が家族以外の様々な人にサポートを受けられている傾向がある。

※問6(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)においても、サポートの対象は同じような傾向が見られた。

年齢別・・・年齢が上がるにつれて、配偶者や友人からのサポートの割合が減少し、反対に子どものサポートしてもらう割合が高くなっている。

## ニーズ調査① たすけあいについて(手段的サポート)

問6(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)



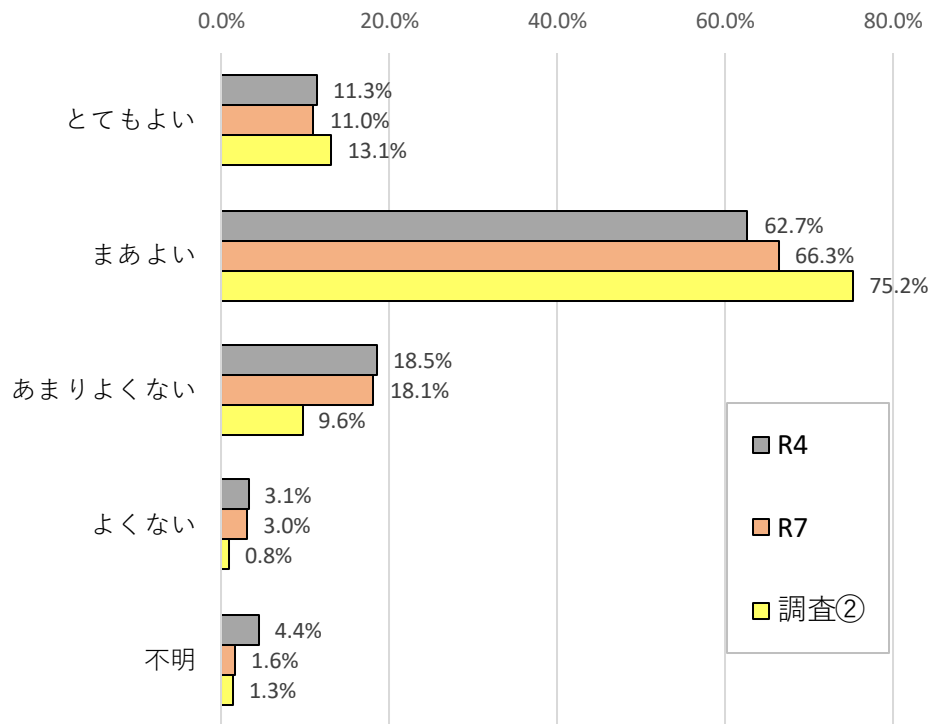
男女別・・・男性は情緒的サポートと同様、配偶者からサポートをしてもらう割合が多い。女性は、手段的サポートにおいては友人ではなく、配偶者や子ども等の家族にサポートをってもらう割合が多い。

※問6(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)においては、サポートしてあげる対象は同じような傾向が見られたほか、そのような人はいないの割合が多くなっている。

年齢別・・・年齢が上がるにつれ、配偶者からのサポートの割合が減少し、反対に子どもや兄弟姉妹等からのサポートの割合が高くなっている。

## ニーズ調査① 主観的健康観・病気について

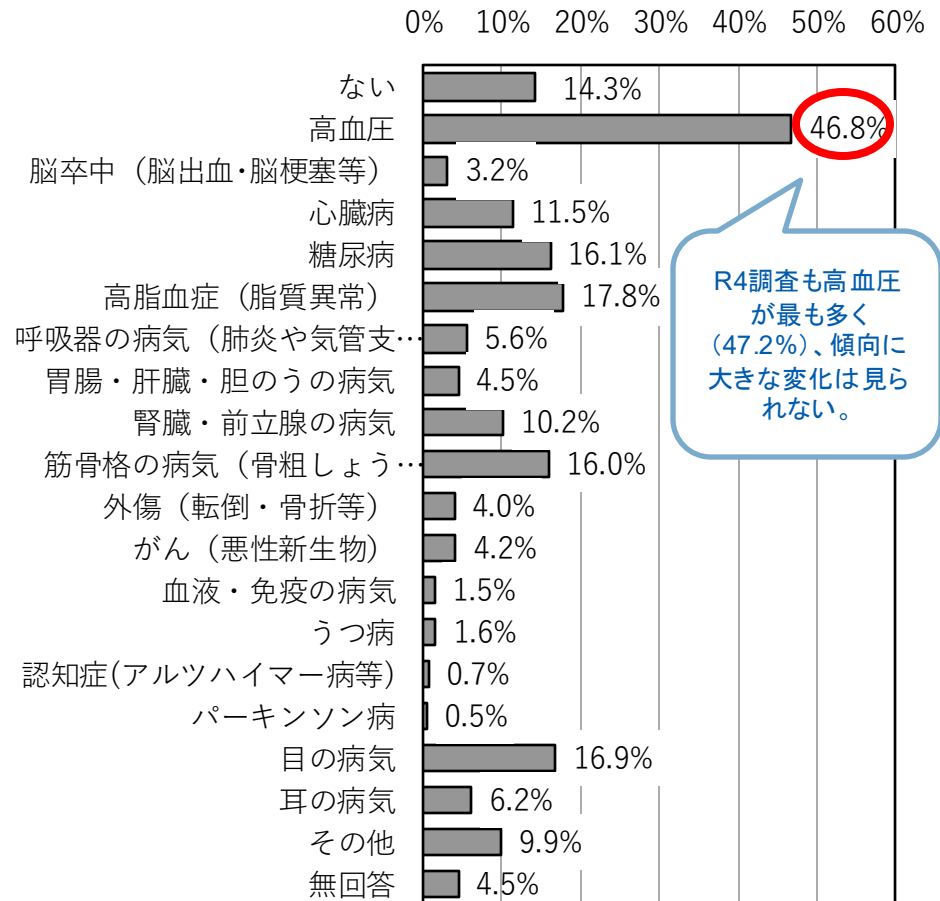
問7(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか



R4⇔R7・・・「まあよい」を選択した人の割合が増加。また、「よくない」「あまりよくない」は増加していないことから、R4から状態を維持できている人が多い。

R7⇔調査②・・・調査②は、「よくない」の割合がわずか0.8%となっており、R7と比べて主観的健康観は高い。

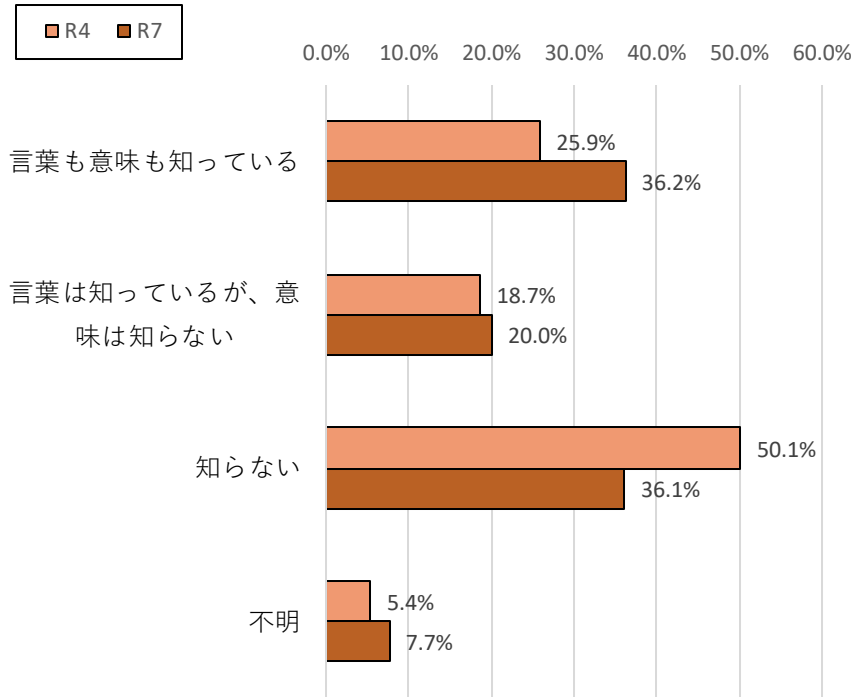
問7(6) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(いくつでも)



R4調査も高血圧が最も多く(47.2%)、傾向に大きな変化は見られない。

## ニーズ調査① 健康への意識について

問7(7)「フレイル」という言葉を知っていますか

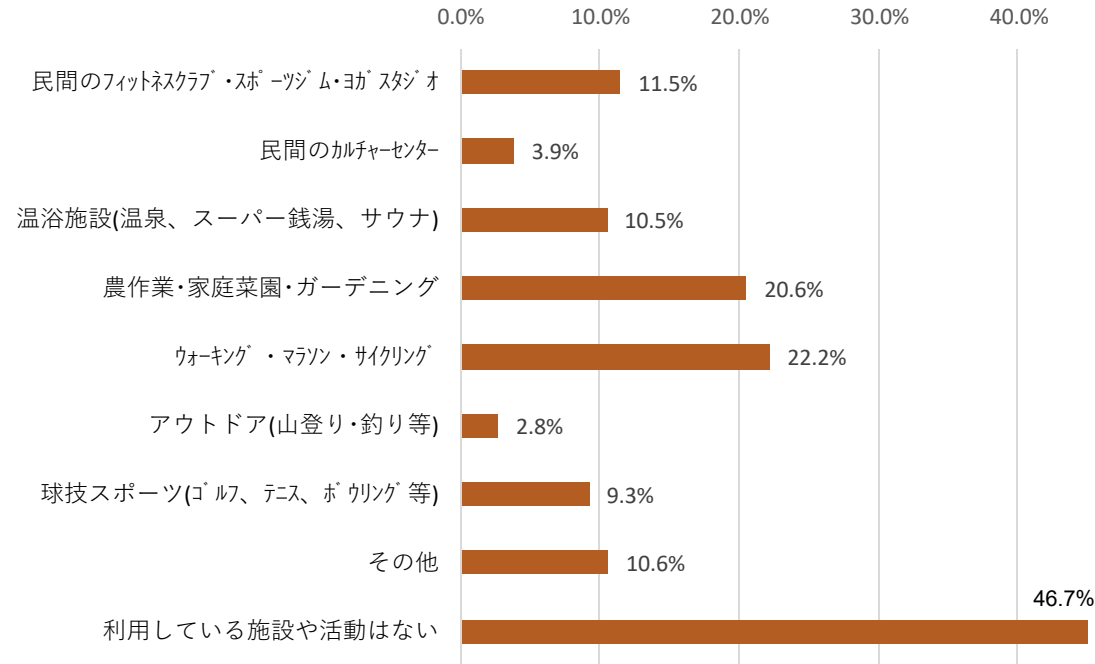


R4⇒R7

フレイルという言葉の認知度・・・増加

⇒言葉自体は約50%の人が知っており、介護予防に関する知識の普及が進んでいる。

問7(8) 健康維持のために利用している施設や活動はありますか(いくつでも)



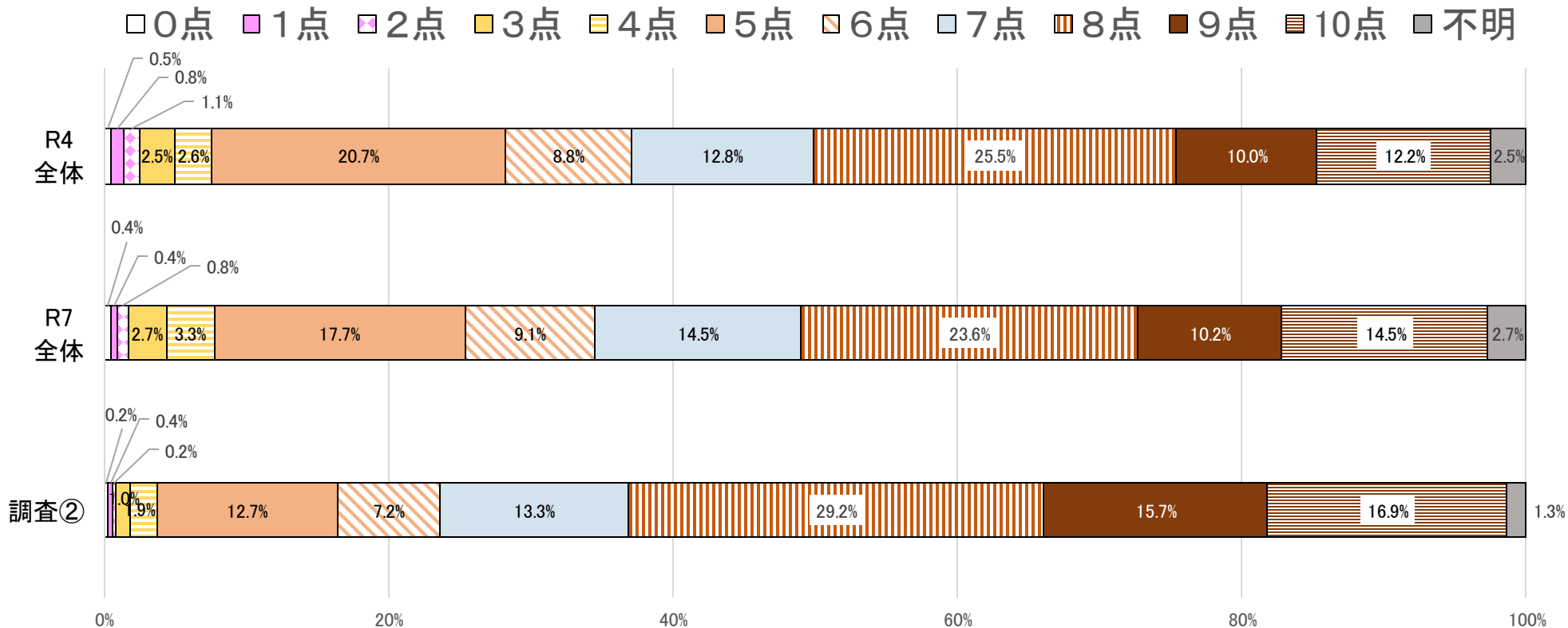
※無回答を分母から除いて計算

活動としては、「ウォーキング・マラソン・サイクリング」、「農作業・家庭菜園・ガーデニング」の割合が多い。

⇒手軽な活動を実践している傾向。

## ニーズ調査① 主観的幸福感

問7(2) あなたは、現在どの程度幸せですか(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数に〇を付けてください)

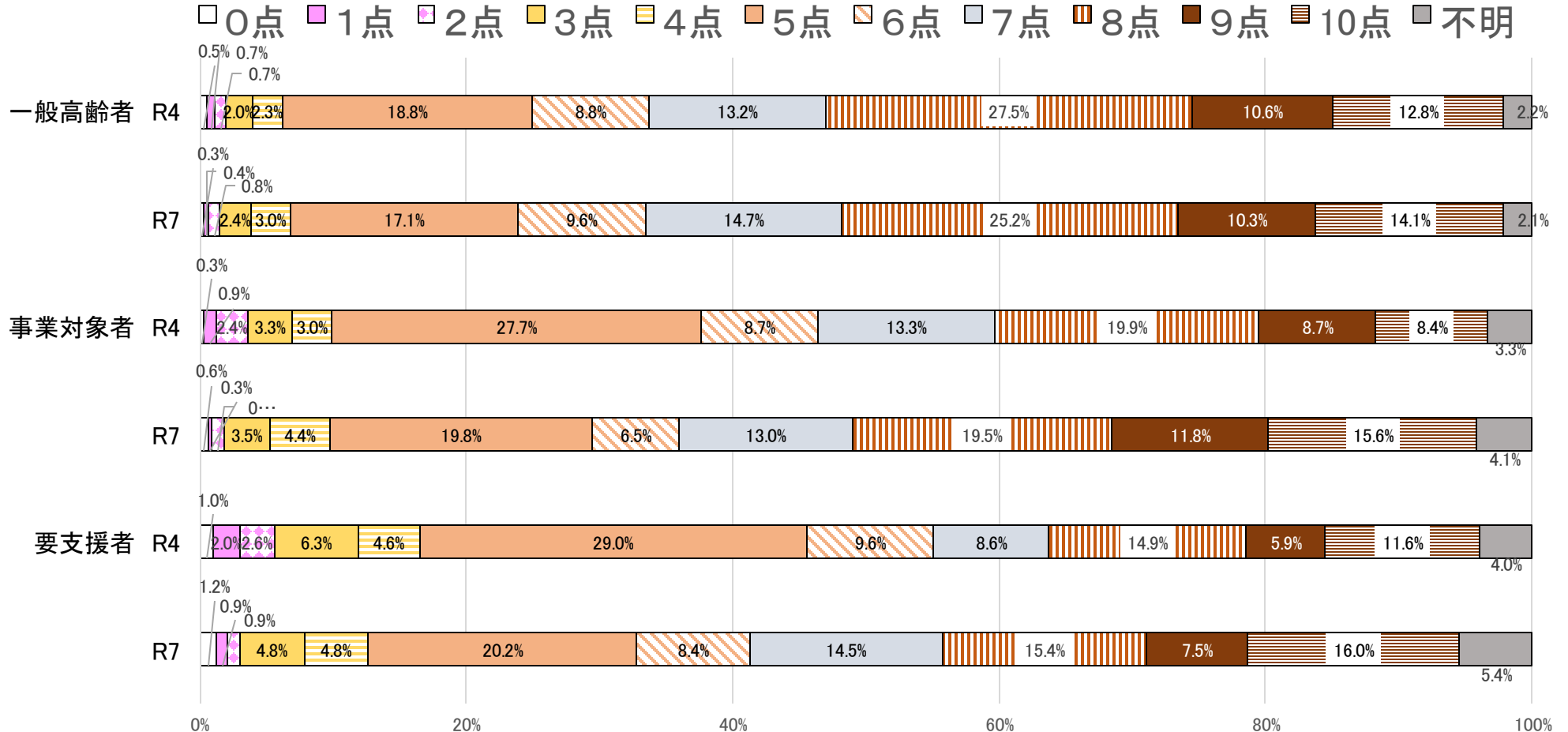


R4⇒R7 0点～2点・・・減少、7点及び10点・・・増加 →幸福度が高まっている傾向。

R7⇔調査② →8点以上を選択した割合が、調査②の方がR7に比べて多い。

## ニーズ調査① 主観的幸福感

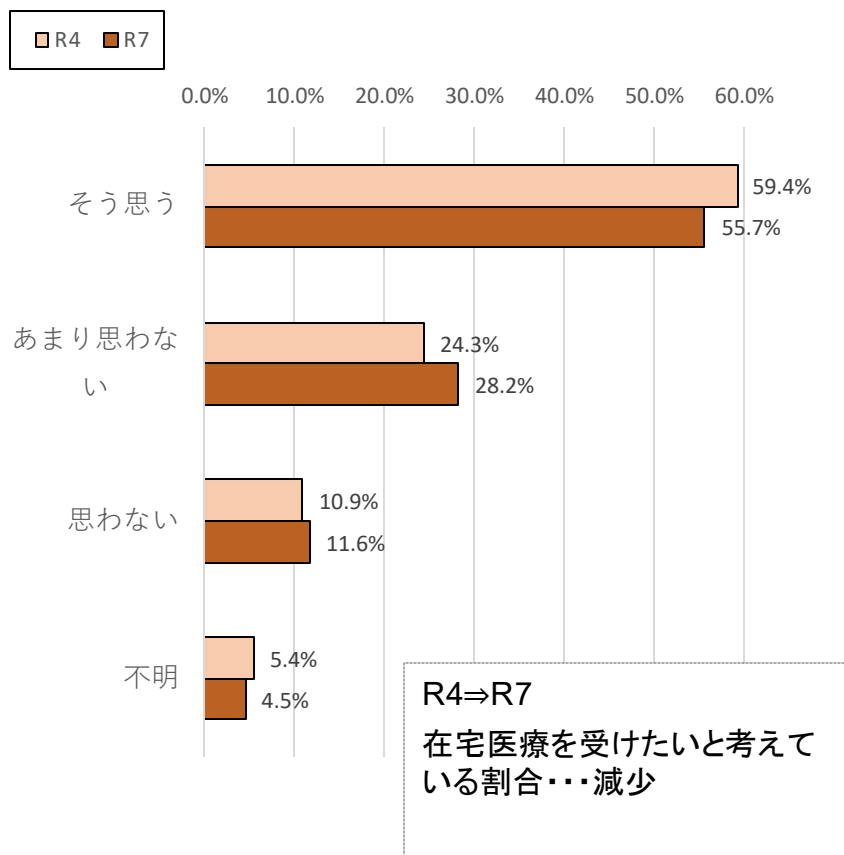
問7(2) あなたは、現在どの程度幸せですか(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数に〇を付けてください)



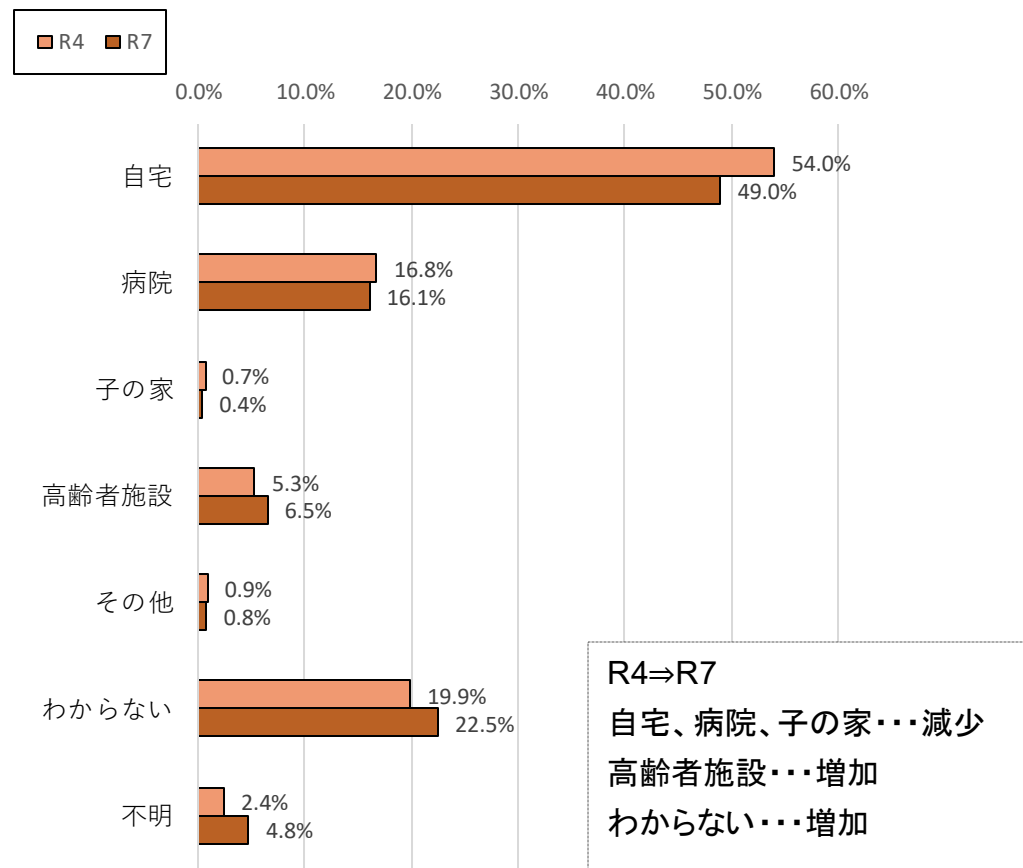
R4⇒R7 2点以下を選択する割合…減少、9点～10点を選択する割合…増加 ⇒幸福度が高まっている傾向。  
 一般⇔事業対象者⇔要支援者 ⇒介護や介助が必要になるほど、幸福度は低くなる傾向。

## ニーズ調査① 在宅医療・人生の最期について

問8(1) あなたは通院が困難な状態になった場合、在宅医療を受けたいですか

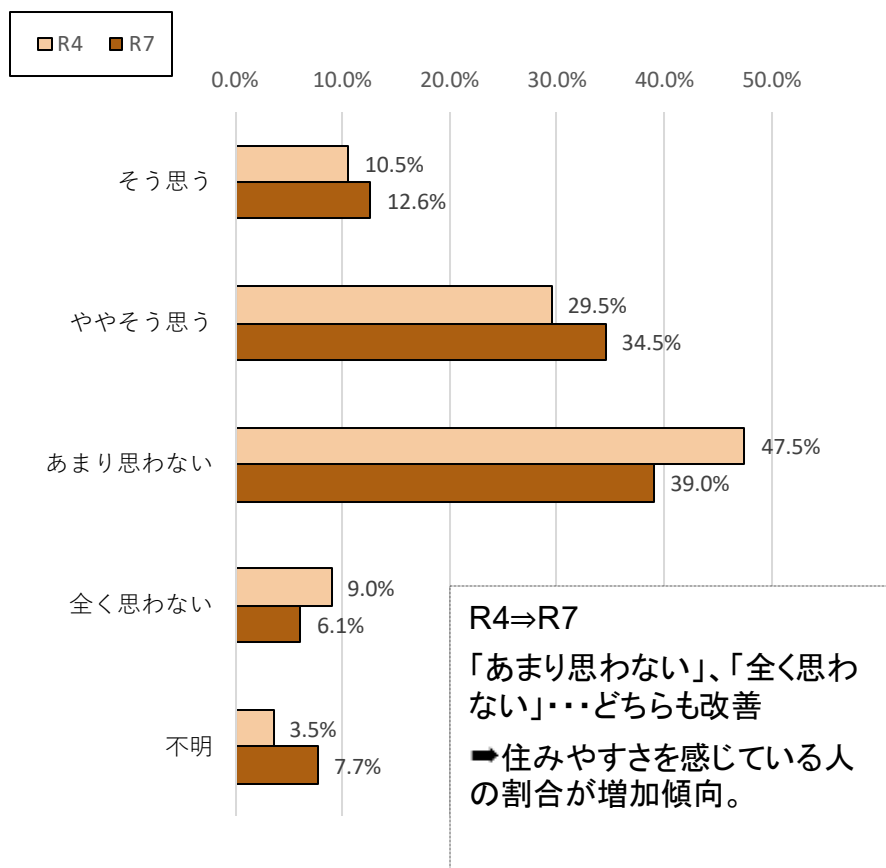


問8(2) あなたは人生の最期をどこで迎えたいですか



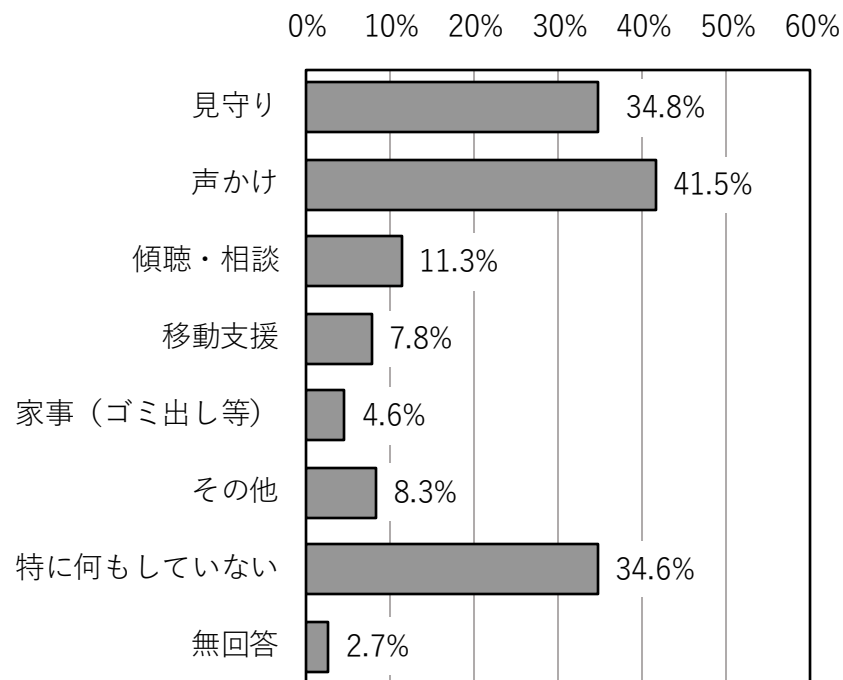
## ニーズ調査① 認知症について

問9(4) 認知症の方やご家族にとって住みやすい地域だと思いますか



問9(6) その人に何か支援をしていますか(いくつでも)

※問9(5)で「はい」(家族・親族以外の身近な人で認知症の症状がある人がいる)を選択した方(17.4%)のみ回答



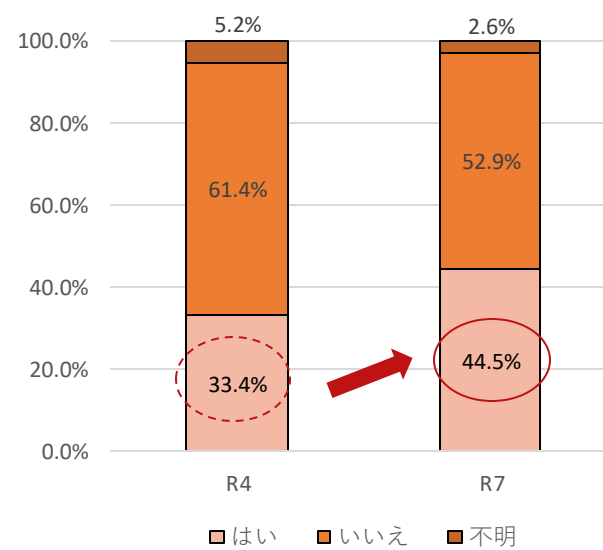
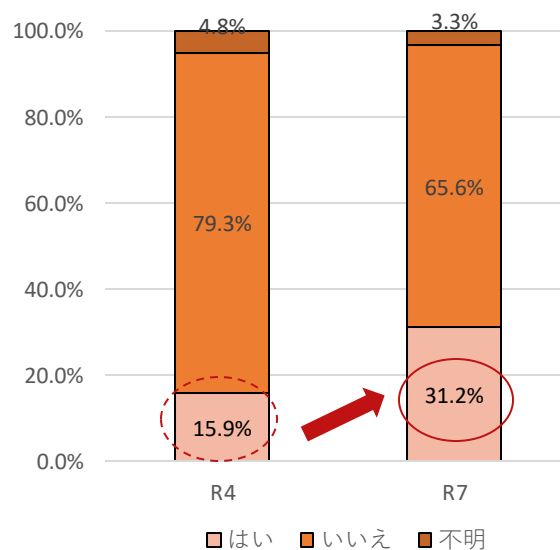
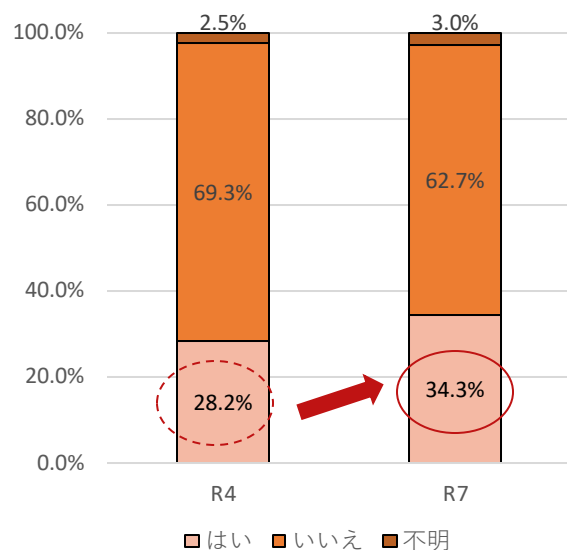
支援者は「見守り」「声かけ」といった、さりげない支援が多く実践されている。一方で、特に何もしていないも34.6%となっており、今後も認知症についての知識や支援の普及が必要。

## ニーズ調査① 各種窓口の認知度

問9(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

問10(1) 成年後見制度に関する相談窓口を知っていますか

問11(1) お住いの地域の地域包括支援センターの連絡先や場所を知っていますか



### R4⇒R7

…各種相談窓口について「知っている(はい)」と回答された人の割合はR7調査では、いずれも30%以上となっている。前回調査(R4)よりも認知度は高まっており、特に成年後見制度や地域包括支援センターについて周知が進んでいる。